

ANALYSTAR LIGHT HIRAME コスパ価格で高性能 アナリスターヒラメ/ライトヒラメ

●モデルチェンジしたノーマル仕様の「アナリスターヒラメ」はMHのみの長さ違いで2アイテム。素材変更で大幅な軽量化を実現。ネジレ防止のX 45、軽量高感度のエアセンサーシート、高感度グラスソリッドなどを採用。6：4調子、大型にもひるまぬバットパワーと食い込みのよさ、操作性も備えている。

新登場の「アナリスターライトヒラメ」も同機能を搭載しつつ、穂先は高感度、高強度のメガトップを採用。いずれもコスパ価格ながら高次元のポテンシャルを持つのが特長。初心者からベテランまで、あらゆる釣り場、釣り方に対応する汎用性も高めた製品だ。

▲アナリスターヒラメの高感度グラスソリッド

アイテム	全長(m)	継数(本)	仕舞(g)	自重(g)	先径/元径(mm)	オモリ負荷(号)	適合クラブサイズ	カーボン有率(%)	メーカー希望本体価格(円)
NEW アナリスターヒラメ									
MH-240	2.4	2	124	150	1.0/12.4	40-120	SS	69	28,800
MH-270	2.7	2	139	170	1.0/13.4	40-120	SS	75	29,800
NEW アナリスターライトヒラメ									
M-225	2.25	2	117	113	0.8/9.9	15-60	SSS	84	27,500
MH-245	2.45	2	127	117	0.8/10.9	20-80	SSS	85	28,300

▲手前がノーマルに80号、向こうがライトに40号。ほぼ同じような曲がりを見せた



バサラ200

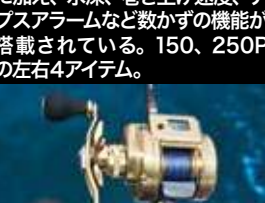
●高い初期性能が長く続く「ハイバードライブデザイン」で強く、軽く、滑らかに巻ける手巻きリールの最高峰。100、150、200の左右6アイテム。



■SPEC: いずれもギア比6.3、自重285~310グラム、当日は200を使用。メーカー希望本体価格4万4300~4万5400円。

NEW バサラIC 150/150L

●革新的巻き上げ性能のバサラにデプスアラーム搭載の新製品登場。ハイバードライブデザインに加え、水深、巻き上げ速度、デプスアラームなど数か所の機能が搭載されている。150、250Pの左右4アイテム。



■SPEC: ギア比6.3(150)、5.3(250P)、自重295~358グラム、メーカー希望本体価格6万7000~7万円。



▲うれしいゲストのカンパチに苦笑

▲福田さんが後半になって連続してアタリをとらえる
▼ついに4枚目で竿頭に



快適ヒラメ仕掛けSS&快適大ヒラメハタ仕掛けSS+S

●イワシエサ用のヒラメ仕掛けは豊富に用意。ノーマル、ライト用、シングル、トレブルフックなど各種。これに大型のヒラメ、ハタを狙うパワフルな仕掛けも新登場。



▲仕掛けを自製するならばなやかなフロン船ハリス、ハリはDマックスヒラメライト、同トリプルで
▲オモリは快適船シンカーSN40~80号を使用



▲掛けたと思ったらサワラにライン切れ

サーシートも採用しています。浅場で穏やかな日ならMがおもしろいですけど」
組み合わせるのがこれも新製品、カウンターの付いた「バサラIC 150L」。これにPE 1.5号を25メートル巻いてある。「オモリはライト40号、ノーマル80号で始めてください」の合図で釣り開始。手ごろなイワシ

動画連動!

★当日の迫力ある動画はダイワ船最前線のサイトでご覧いただけます。



このあたりから潮に押されて、右舷ミヨシの福田さんが絶好の潮先となる。あれよあれよとアタリを独占し、終わってみれば3キロ超えの大型を含めて4枚の竿頭。
北本さんは好時合になるとサワラに好かれ、ライン切れを多発したが敗因。次回の挑戦を期しながら、福田さんに賛辞を贈っていた。

注目したいのは、ライトとノーマルの違いがあるにもかかわらず、アタリを待つ竿の曲がり方はほとんど同じであること。ヒラメ釣りに向く竿の特性をこの2本はしっかりと表現している。30分ほどして福田さんがイナダ、北本さんがカンパチを釣り上げるが、船中本命のアタリなし。そこで船長は大きくポイントを変えて、40メートルダチへと移動する。浅場は底荒れしているだろうとの判断だ。

を付けて投入すると、横流しなのに潮が動いていないせいか道糸はほぼ真すぐだ。
一方の福田さんは新登場「アナリスターライトヒラメ」、これも2タイプあるうちのMH-245。「アナリスターシリーズ初登場です。軽量設計はもちろん、しなやかなメガトップ、エアセン

★バットパワーを生かし、合わせも決まってガッチリハリ掛かり

★福田さんの1枚目は当日最大3.1キロの大型だった

祝 外房ヒラメ全面解禁 今シーズンも好調の予感

★ヒラメの名手がライトとノーマルに分かれて釣る

福田 豊起
アナリスター
ライトヒラメ
×
バサラIC
150L

北本 茂照
アナリスター
ヒラメ
×
バサラ 200

福田豊起、北本茂照が語る 最新タックルの「いいところ」

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.69

ヒラメ最前線

at 外房大原港出船

▲アナリスターヒラメ、アナリスターライトヒラメのそり踏み



▲デプスアラーム搭載のバサラICを使用



▲高いウネリが押し寄せる中でのスタート

●外房大原沖のヒラメが9月の部分解禁をへて、10月1日に全面解禁。今シーズンもスタートから好調に釣れ続けている。福田豊起、北本茂照の両氏が満を持して訪れたのは10月下旬、最新タックルを携えての釣行だった。

釣行当日は台風接近によるウネリが港口にも押し寄せ、出船が危ぶまれるほどだった。乗船する外房大原港の富久丸、港口健大船長は周囲が明るくなるのを見計らい、いつもより1時間以上遅らせ6時過ぎにゆっくりと岸払いした。
福田さん、北本さんは食い渋りが予想される状況にあっても、表情はどこ吹く風。たぶんタイ

ワのヒラメ用ニューロッドの初使用にテンションが高まっているからに違いない。
ウネリをかき分け、40分ほど走って着いた先は15メートルルダチのポイント。風は穏やかだが、2メートル以上のウネリが押し寄せる悪条件。この日は福田さんがライト、北本さんがノーマルで狙う作戦である。
北本さんが選んだのはモデルチェンジして登場した「アナリスターヒラメ」、2アイテムあるうち長めのタイプMH-270。ウネリ対策であるのはもちろんだ。「270で170グラム、前モデルよりかなり軽量化しているので手持ちでの釣りも楽々です」
北本さんのスタイルを見ていると、まるでライトタックルで釣っているかのように軽快だった。柔軟で高感度のグラスソリッドの穂先は仕掛けを安定させ、食い込みをも促すという。
コンビとなるのが手巻きリールの最高峰「バサラ200」。PE 3号180メートルの糸巻き量は、ノーマルヒラメにはジャストサイズだ。